

～**苗立枯れ病、もみ枯れ細菌病予防について**～

春作業が始まってから気温が平年を下回る日が多く、肌寒い日が続いております。浸種中の水温が5℃程度で推移している場合は、ぬるま湯を足すなどして10℃程度の水温を維持するよう心がけてください。

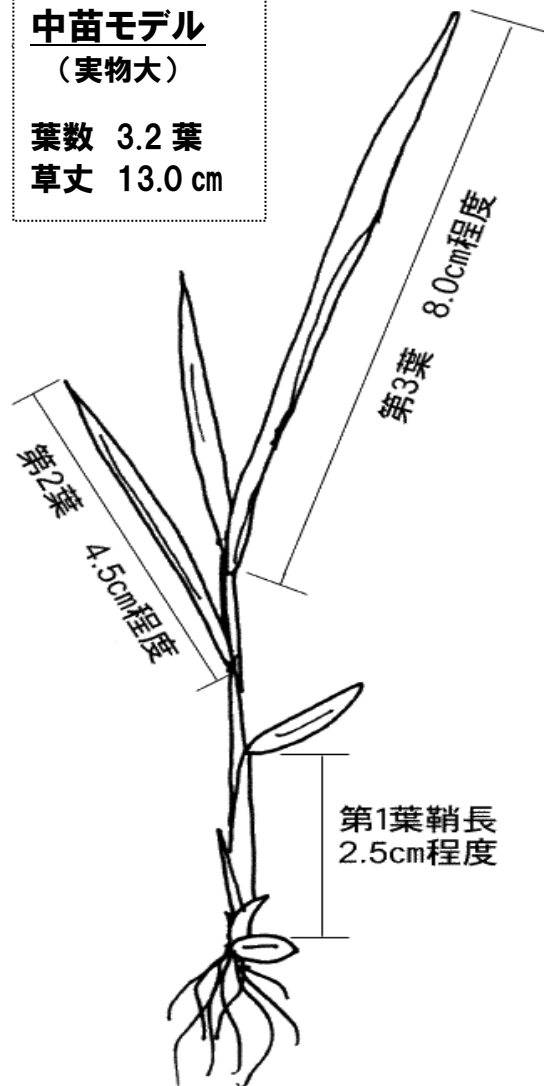
また、催芽機等で加温されている方は吸水が進み、催芽時間が早まる場合も考えられますので、発芽状態をこまめに確認してください。

なお、播種後に低温日が続くと苗立枯れ病等の発生が懸念されますので、症状が見えた時は以下を参考に防除に努めてください。

**1. 苗立枯れ病**

《育苗期に発生する主な病害の特徴》

**中苗モデル**  
(実物大)  
葉数 3.2 葉  
草丈 13.0 cm



<p><b>リゾース属菌</b></p> <p>種もみ層に白い綿毛のようなカビが種もみ層に繁殖し出芽2~3日で箱全体をおおうようになり、やがて灰白色になる。 苗の生育は悪く、黄緑色に退色する。根の先端はふくらんで伸びが悪い。 根は短く、先端はふくらんでいる</p>	<p><b>フザリウム属菌</b></p> <p>出芽後苗の伸びが悪く、地際部が褐変し、もみを中心に白色~淡紅色のカビがまん延している。 茎基部をカミソリで割ると褐変している。この菌は苗が弱った時に発病しやすい。 もみを中心に白色~淡紅色のカビ 根も褐変</p>
<p><b>ピシウム属菌</b></p> <p>フザリウムとよく似ているが、地際部の褐色はやや淡く、水浸状になり、急に萎凋枯死する。地際部にカビは認められない。茎基部をカミソリで割ると褐変や水浸状に変化している。 地際部が褐色で水浸状となっている 地際部にカビは認められない</p>	<p><b>トリコデルマ属菌</b></p> <p>苗の被害はフザリウム属菌に似ているが、葉の黄化が特にひどい。カビはかさぶた状ではじめは白く後、青色となり地際部や、もみのまわりにかたまりとなってみられる。 根は短く数も少なく、褐変し生育不良となる。 かさぶた状のカビ 根は短く数も少ない</p>

**2. 苗立枯れ病防除薬剤**

時期	薬剤名	濃度及び散布量 (箱当り)	苗立枯病菌の種類			
			リゾ-プス	ピシウム	フザリウム	トリコデルマ
発芽後 灌注	タチガレエースM液剤 注)	500 倍、500ml/箱	—	○	○	
	ベンレート水和剤	500 倍、500ml/箱	—			○

※ 発病後のリゾース菌の防除薬剤は無いため、シルバーポリは発芽後早めに除去する。  
注) 床土にタチガレエースM粉剤及び播種時にタチガレエースM液剤を使用しなかった場合は、発芽後にタチガレエースM液剤500倍希釈液を灌注する。

**3. もみ枯れ細菌病・高温障害対策**

播種後に高温が続くと出芽前に被覆内の温度が高くなり過ぎ、「もみ枯れ細菌病」や苗ヤケ等の「高温障害」が懸念されます。もみ枯れ細菌病は、初期の高温が発生の要因となります。ハウス内温度が30℃以上の日中は側面のビニールを開け、換気に努めてください。